

自由と規律

校長 齊藤 進

表題は本校3年生の萩原雅貴君が荒川小論文コンテストで教育委員会賞を受賞した著書の題名です。慶応大学の池田潔先生が著した名著ですが、中学生でこの本を読み、自由とは何か、規律とは何かについて考えをまとめた事に感心しました。



【イートン校】

この著書で描かれているのはイギリスのパブリックスクールと呼ばれている全寮制の私立学校です。とくに、パブリックスクールの代表であるイートン校（イートンカレッジ）は卒業生の多くがオックスフォード大学やケンブリッジ大学に進み、ウィリアム王子やヘ

ンリー王子などの著名人や18人もの首相を輩出したイギリスの名門校です。

パブリックスクールの生活はかなり厳しく、食事是一片のパンに少量の肉、オートミール、マーガリン少量に紅茶などが主で、育ち盛りの生徒には辛い内容ですが、忍耐を養うことが目的となっているようです。外出も制限され、1学期に2回の休日と週に1度必要な生徒のみ理髪店や洋服店にいくことが許可されているだけです。また、個人の利益よりも全体の利益が優先されるため、団体への忠誠心と自己抑制の精神が求められます。

パブリックスクールの教育を通して育まれるイギリスの精神は「**最も自由なところに規律があり、最も規律があるところに自由がある。規律なき自由は放縦であり、自由なき規律は専制である。**」と言えるでしょう。規律を求めず自由だけ求めるのはわがままに他ならないことであり、自由を求めれば当然規律が求められます。今の私たちの社会はどうでしょう。規則や規律がきびしいから、もっと自由に、いや、規則や規律でしぼるのではなく、自由奔放に育てるべきではと言うことはないでしょうか。全体のことより個人の権利が優先しすぎることはないでしょうか。

私はかつてニュージーランドの全寮制の私立学校を訪れたことがあります。ニュージーランドはオーストラリア同様にイギリスの移民が建国した国です。その学校もイートン校に似ていました。給食をランチルームでいただく機会がありました。ホットドッグに少量のスープととても質素でしたが、生徒たちは和気あいあいの雰囲気の中で食事を楽しんでいました。授業は厳格で自由に発言はできますが私語する生徒は一人もいません。全校朝礼では私語は許されず、上級生が下級生を注意し、壇上では生活指導の先生が鋭い視線で生徒の姿勢に注意を払っていました。しかし、寮の生活は自由で生徒は寮生活を楽しんでいて、イギリスの精神が生かされ自由と規律がきちんと両立していると思いました。

尾久八幡中学校も礼儀や規律を重んじる学校で、学校生活全般にそのことが求められます。ですが、生徒の自主性や自由な意見を尊重する学校でもあります。萩原君の感想文に接し、改めて自由と規律について考え、本校の姿に思いを馳せる機会を得ることができました。生徒の皆さんも一度この本を読んでみてはいかがでしょうか。